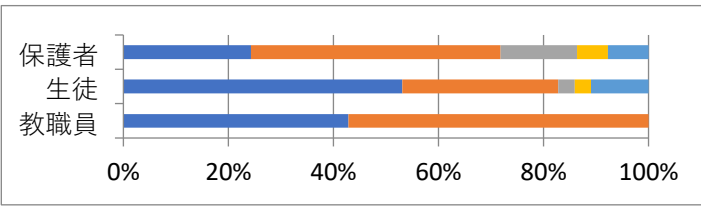
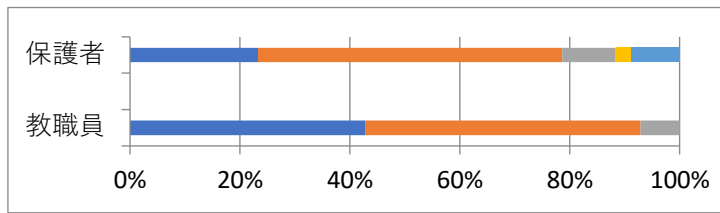


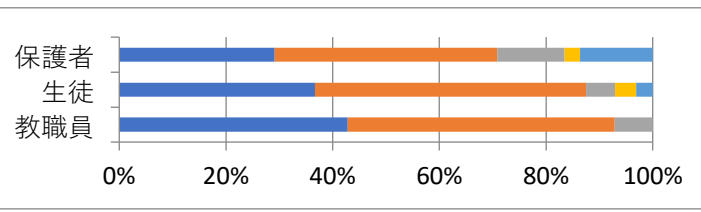
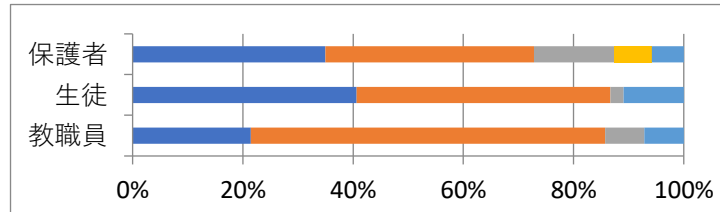
# 令和4年度 学校評価

■ そう思う   
 ■ どちらかといえば、そう思う   
 ■ どちらかといえば、そう思わない   
 ■ そう思わない   
 ■ わからない

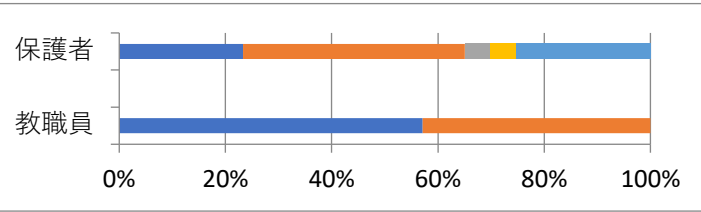
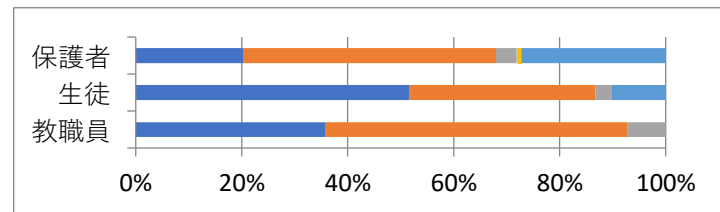
## ①いのちを大切にする心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

1 一人一人の児童生徒の尊重	2 道徳・心の教育の充実
学校は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていますか。	学校は、豊かな人間性を育む心の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）
	
考察：一人一人の子どもを大切にされた指導や対応については、すべての教職員が努力していると考えている。特に児童は半数（53%）が「そう思う」と回答するなど、教職員以上に評価が高かった。一方、保護者の20%近くは「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と回答しており、児童の6%以上に学校の対応に対して肯定的に受け止めていないことがわかる。	

## ②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

3 授業力向上	4 タブレット端末活用
先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。	子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。
	
考察：わかる授業・楽しい授業づくりは、教職員の90%が努力していることに対し、保護者は71%が努力を認めるにとどまった。逆に保護者の14%が「わからない」と回答するなど、教職員の取り組みが保護者に理解されていない様子も伺える。学習に対するタブレット活用は、児童は活用している意識をもっているが、教職員はそこまで活用している意識をもっていないことがわかる。	

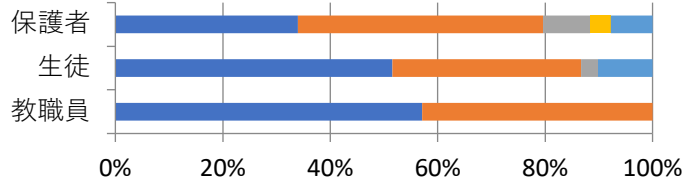
## ③教員が子どもと向き合うための体制の整備

5 学校の支援体制	6 共生社会を担う人材の育成
学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。	学校が行っている「交流及び共同学習」等は、相互理解につながっていると思いますか。
	
考察：教職員は支援を必要とする児童の教育に対し共通理解を図りながら取り組んでいるが、保護者は65%が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答するにとどまっている。支援体制と交流及び共同学習のどちらも、保護者の25%程度が「わからない」と回答する。なお、該当児童の保護者は学校の取り組みを理解されていると考えられるが、多くの保護者には伝わっていない様子が伺える。	

④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

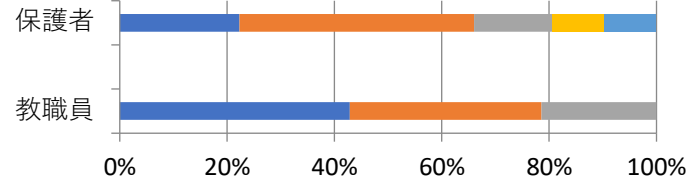
7 安全と事故防止

学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。



8 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。



考察：安全と事故防止については、保護者の13%が「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と回答している。家庭や地域との連携協力については、保護者・教職員とも評価が低いのは、コロナ禍でもあり連携・協力がなかなか困難だったことが理由として挙げられる。コロナ禍にあっても学級通信やタブレット活用などを活用し、双方向のやり取りを工夫することが求められる。

来年度の具体的な取組について

- ・教職員は一人一人の子どもを大切にされた指導に日々努めている。今後は自らの実践や児童との関わりを振り返りながら、授業を含め日常の取り組みの中で児童に「勉強がわかる。」「先生は自分たちを理解して接している。」と実感できる取り組みを進めていく。児童の実感を通して保護者の学校理解へとつなげていきたい。
- ・タブレット使用だけでなく、効果的な活用を意識した児童主体の「学び取る」授業づくりに努めていく。また、教職員が授業改善を意識して取り組めるような校内研修の進め方を考えていくとともに、児童が活躍できる行事の時期と計画の見直しを進めていきたい。
- ・小中一貫の取組事項である「挨拶」と「掃除」とともに、生徒指導主任を中心に、学校職員が共通理解・共通実践のもとに「返事」や「廊下歩行」など基本的な生活習慣の定着を図る。不登校対策については、担任を中心に学校組織として対応を進めていきたい。

学校関係者評価

学校評議員からは、どの項目についても「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と高い評価であった。一方、コロナ禍の影響もあり、地域に開かれた学校として学校評議員に学校の教育活動を直に見ていただく機会をもつことが難しかった。そのような中で、運動会や音楽発表会を参観していただき、教職員の努力や学校としての取り組み、児童の頑張りを評価していただくことができた。

今年度学校全体で取り組んだ『挨拶』については、「元気な挨拶を児童にできるようになってほしい。」との率直な意見をいただいた。廊下歩行や自ら進んでの挨拶、登校班登校の仕方など、上級生が模範となる姿を見せたり、下級生に望ましい行動を伝えたりできるようにすることが望まれる。